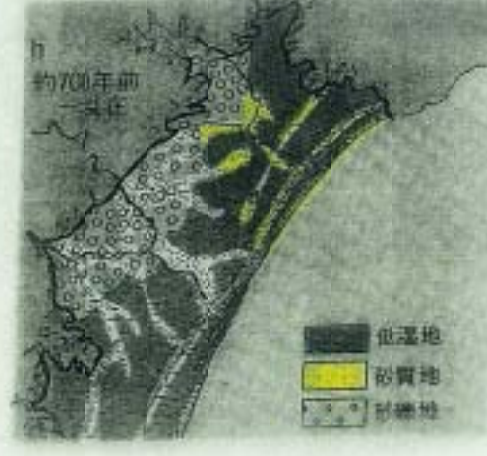
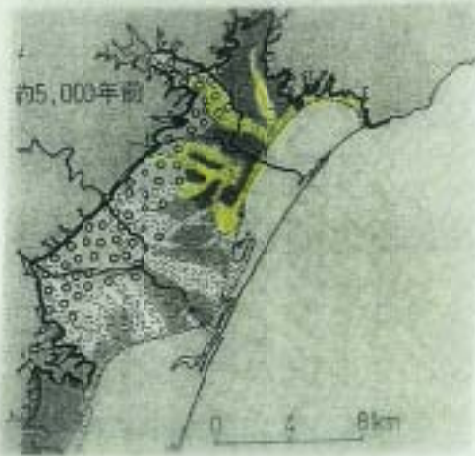


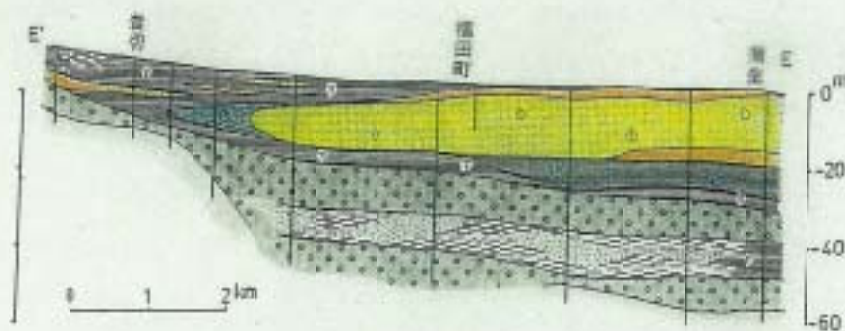
絵図でみる福室地区

1. ここはどのようにしてできたのか？ (沖積平野の形成過程と地形の変化)



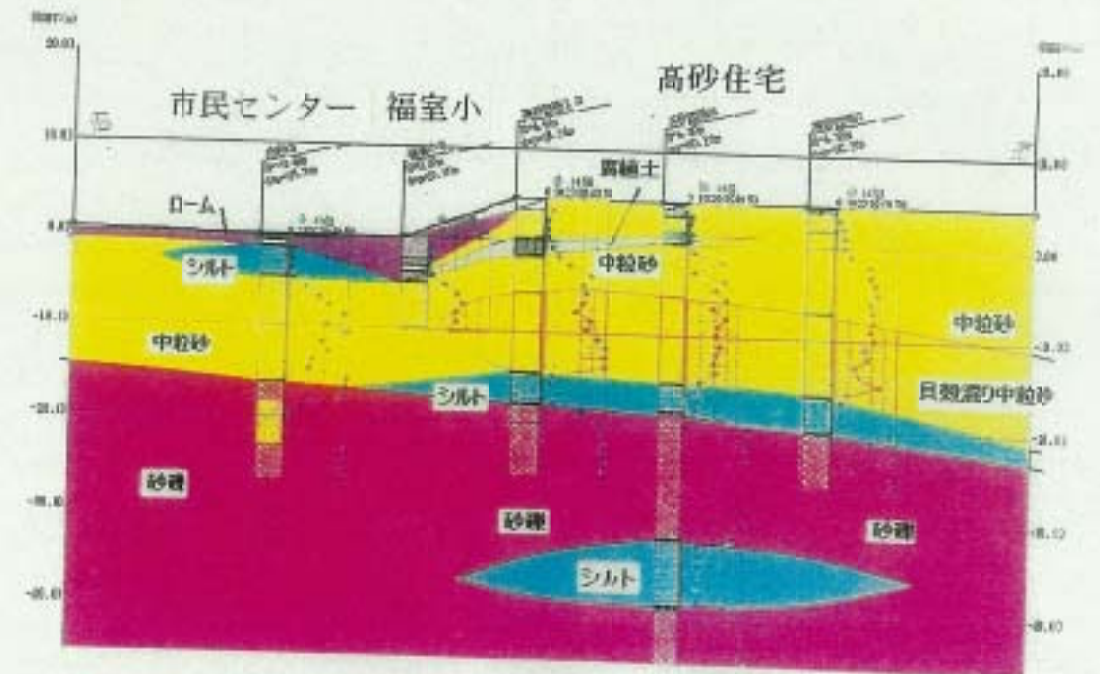
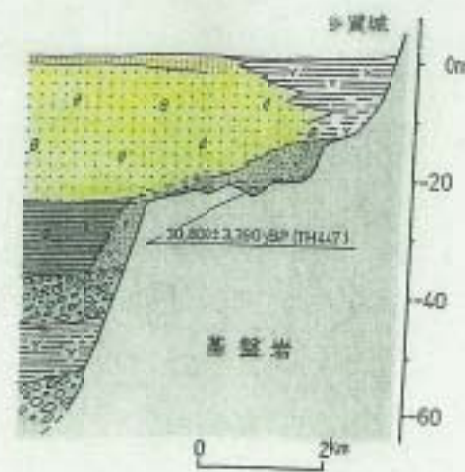
福室地区を含む沖積平野は七北田川と太平洋沿岸流による土砂の供給堆積が行われて、形成されたもので、浜堤、自然堤防、旧河道、後背湿地などが複雑に入り組んでいる所です。長い時間をかけて様々な地形を作りながらいまの平坦地となりました。

2. 地下はどうなっているのか？ (地層の構成と地盤の強さ)



七北田川に沿う地層断面図

沖積層上部層	沖積海成粘土層	上部砂礫層
沖積海成砂層	沖積陸成粘土層	厚雑混じり粘土層
沖積海成砂層		下部砂礫層



3. 100年前はこんな感じでした (集落と土地利用)



1905年(明治38年)



1977年(宮城県沖地震の1年前)

異説 地名考

“福室”は、西光寺境内に正平親王の古碑があるくらいに歴史の深い土地柄です。史書によれば、地名の由来として“室”は高砂村の前身の大“村”郷に由来し、“福”は中古より“福”字を好名として地名に冠した(吉田東伍 : 大日本地名辞書)ものであるとされている。

このようなあて字的な解釈も、なるほどとは思いつつも異説唱えてしまいたくなるものがあります。“室”とは、そもそも家屋とか建部屋、水室という空間を指しているもので場所の意味ではなかったのか、“福”は袋、緩じこむ、通じていないということに関連すると見た。つまり、この地域一帯は、多くの沼や湿地が点在し集落が自然堤防の水はけの良い所においている風景が袋状にも見えたという地形景観に由来しているというのは、いかがなものでしょうか？

4. 経験から学ぶ地震への備え

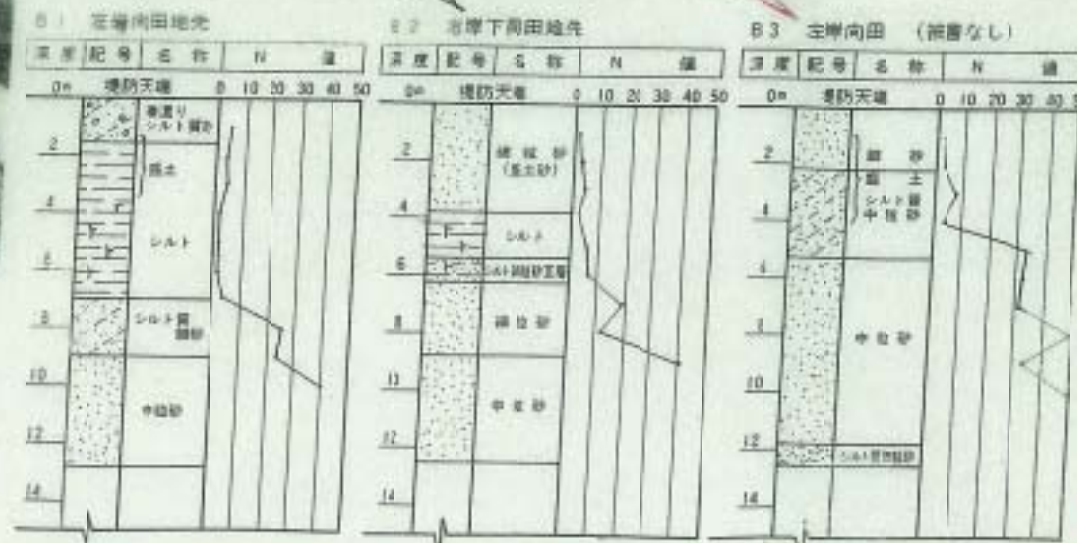


写真4-1-34 七北田川右岸堤防の被災



写真4-1-32 七北田川左岸堤防の被害(向田地区、扇形堤)

被害の起きた所と被害のなかった所の土質の相違



七北田川ボーリング主砂層

1) 宮城沖地震の時には、目立った被害はなかった。だから、安心か？

*土地の利用状況が変わっています→家屋や構造物が増えています。
家屋の老朽化が進んでいます。
道路が多くなりました。
世帯数が増えて、ライフラインが増設しています。

2) 同じタイプで同じ強さのものの再来とはかぎりません。

*地盤を反映して揺れが異なります→盛土の厚さが影響します。
盛土したもとの場所によっても異なります。
地下水位が高い所では危険度がまします。

3) 同じ砂質土でも、細粒か粗粒かでも違います。

4) 看板、トラス、ブロック塀、ガラス窓など危険なものが増えています。

→降ってくるもの、寄ってくるものは危険です。